

令和5年度 日南市立大窪小学校 学校関係者評価書

【学校経営ビジョン】 「宮崎県教育基本方針」及び「第二次宮崎県教育振興基本計画」、「日南市教育基本方針」を踏まえ、学校の教育目標「自ら学び 心豊かに たくましく生きる 大窪っ子の育成」を目指すために、「きめ細やかに寄り添いながら見届ける教育」を基本理念とし、「すべきことをきちんといいないに」（あいさつ・返事・整理整頓・時を守る）、「一人一人が宝物」（自他の良さを認め伸ばす）を合言葉に指導を行い、保護者・地域に信頼される学校を目指す。「チーム大窪」として教職員が一丸となり、「夢や希望に向かって努力し、意欲をもって学び続けようとする」児童の姿をイメージしながら、キャリア教育の視点を意識した教育を推進する。また、教育の原点となる特別支援教育の考えを取り入れ、児童全員にとって居心地の良い学校づくりを目指す。		4:よい 3:だいたいよい 2:もう少し 1:よくない		
重点目標	目指す具体的な姿	評価指標	自己評価 成果・課題等	学校関係者評価 学校運営協議会委員の意見
特別支援教育	【特別支援教育の基本的な考え方の理解と取組】《自ら学ぶ力》	評価	成果・課題等	評価
	1 児童は一人ひとり異なる特性をもつことを理解したうえで、互いを尊重し、協力して全員にとって居心地の良い場所づくりをしようとする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 特別な支援を必要とする児童生徒の困り感を的確に把握することができたか。</li> <li>○ 専門的知識をもつ講師を招聘し研修を行うことができたか。</li> <li>○ インクルーシブ教育システムの理念を理解し、具体的対応の在り方を検討することができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 専門的知識をもつ講師による研修を受講したり、専門書を読んだりすることを通して、特別な支援を必要とする児童の困り感を的確に把握するとともに、その改善策の実践に全職員で努めてきた。</li> <li>○ 「学校に来るのが楽しいですか」という設問に対して、児童の自己評価は4.0であった。また、「子どもさんは学校に楽しそうに行っていますか」という設問に対して、保護者の評価は3.7であった。大窪小学校が、全員にとって居心地の良い場所に近づいていると考える。</li> <li>○ 本校では、自ずとインクルーシブ教育を全校で実践する形となっており、日常的に、また定期的な会で検討しながら進めることができています。今後、さらに充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 近所の子供さんが、家のお手伝いや会話の中で、すっきり成長していく姿をみて喜んでいます。</li> <li>○ 自分自身を大切に、仲間を大切に、みんな一緒に学校生活を過ごせると良いと思います。</li> </ul>
確かな学力の定着	1 「意欲、態度、習慣の力」「未来への力」 夢や希望に向かって努力し、意欲をもって学び続けようとする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 個に応じた指導・助言・激励を徹底し、学びへの意欲を高め継続させることができたか。</li> <li>○ 全教育活動を横断的にとらえ、関連付けた指導を行うことにより、学ぶことの意義を感じさせることができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 少人数の強みを生かした指導過程を構築し、特に、「個別最適な学び」を充実させるために個に応じた指導や手立てを講じた授業づくりに努めた。</li> <li>○ 学びに向かう力を育む「ひなたの学び」の具現化に向けて、本校児童の実態と照らし合わせながら具体的な取組を検討するなど主題研究の内容を充実させ、学ぶ意欲を高める授業づくりを日常的に行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 少人数ながら、先生方も児童もそれぞれに一生懸命さが伝わってきます。</li> </ul>
	2 「知識と技能の力」「生活で生かす力」 確実に身に付けなければならない各教科の基礎・基本を身に付け、学んだことを様々な面で生かすことができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各教科の基礎・基本が身に付くまで見届けることができたか。</li> <li>○ 一人一台端末環境を前提としたICT・教育データを活用することができたか。</li> <li>○ 読書及び作文指導を計画的・継続的に行うことができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 当該学年で身に付けるべき基礎・基本の定着をさらに徹底させる必要がある。反復学習や家庭学習をこれまで以上に充実させる等、保護者との連携・協力が不可欠である。</li> <li>○ ICT支援員の協力を得ながら、タブレット端末を効果的に活用した授業を積極的にを行い、教師の授業力及び児童の学力の向上のため力を注いだ。</li> <li>● 朝の読書やフックタイムを適時程に位置付け、読んだ本を人に紹介する取組をした。一方で、家庭での読書量(時間)の少なさが明らかであることから、今後一層の工夫が必要がある。</li> <li>○ 授業以外に新聞社への投稿や作文コンクールへの応募など、作文指導に積極的に取り組んだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ テレビや新聞社への応募などで大窪小が出ると、とても元気が出ます。頑張ってください。</li> <li>○ 読み聞かせの時、以前は受け身の子どもが多かったが、読み終わった後自分の感じたことなど、感想を積極的に発表する姿が見られました。</li> </ul>
豊かな心の育成	【コミュニケーション能力を育む場】《他者から学ぶ力》	評価	成果・課題等	評価
	1 誰に対しても、しっかりとしたいあいさつ・返事ができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 誰に対してもしっかりとしたいあいさつや返事ができるように指導することができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域の方々や来校者、他校の先生方など、誰に対しても明るく気持ちの良いあいさつができる児童が多い。また、名前を呼ばれたらすぐに返事をするのが習慣化している児童も増えてきた。</li> <li>● 集団の中で返事をする時など、他の児童任せにせず全員が声を出せるような指導を継続する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 挨拶はとても良いです。</li> <li>○ 挨拶は言っていると感じました。</li> </ul>
	2 自分も周囲の人も大切にすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の良さに気付かせるとともに、思いやりをもって周囲の人に接することができるように、道徳科や日常生活の中で継続的に指導を行うことができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全学級道徳の授業を35時間、完全に実施することができた。教育課程上の工夫により、4年生と5年生を分けて授業を行うことで、同年児童の考え方や感じ方にふれさせることができた。</li> <li>○ 参観日、人権と平和に関する授業を公開したり、月目標に掲げ、放送等を活用して毎日意識付けを図りたりした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「3つ子の魂100まで」 この年になると昔の人は、良いことわざを残されていると感心しています。</li> </ul>
3 先生や友だちの話をしっかりと聞いたり、自分の気持ちや考えを上手に伝えたりすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ NCP(日南コミュニケーションプログラム)を計画的に実施し、各場面で具体的に指導することができたか。</li> <li>○ 他校児童との交流学習や夢プロジェクト等を通して、コミュニケーション能力を高めることができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ NCP等を活用し、「上手に頼ろう」や「上手に断ろう」、「場面・考え・気持ちを分けよう」、「嫌な気持ちになる考えを理解しよう」など、よりよい人間関係を築くために必要なスキルを身に付けるための学習を行うことができた。</li> <li>○ 大窪小・細田小・大窪津小3校合同集合学習、吾田小との交流学習、細田小・大窪小合同運動会、夢プロジェクト「リズムダンス」等を通して、他校児童や講師とあいさつや会話を交わし、人の話をしっかりと聞いたり、自分の気持ちを上手に伝えたりすることができるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 3.8</li> </ul>	
たくましく心と体	【基礎から応用まで、個に応じた力を身に付ける場】《自ら学ぶ力》《他者から学ぶ力》	評価	成果・課題等	評価
	1 自分の心と身体を健康な状態に保ち、たくましく学校生活を送ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 心身の健康に関する授業等を計画的に実施するとともに、常時指導を行うことができたか。</li> <li>○ 児童の心身の状態を的確に把握し、家庭と連携を図りながら、少々の困難は自分の力で乗り越えることができるようになるための継続的な指導を行うことができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学級活動や保健の学習において、心身の健康に関する授業を年間指導計画に沿って実施し、日常生活の中で生かすことができる力の育成に努めた。</li> <li>○ 「弁当の日」の取組については、児童の自己評価と保護者の評価の両方が4.0であった。保護者の協力が得られていることに感謝し、今後も「食育」の観点から「弁当の日」を充実させていく。</li> <li>● 新体力テストでは、「長座体前屈」、「立ち幅びびり」、「50m走」などでスコアが50未満の児童が多かった。極少人数の平均なので仕方ないという見方でもできるが、児童一人一人の体力向上に努めることは必須である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 持久走の指導について、先生の教え方はすばらしいと思います。また、子どもたちは、タブレットを使って記録を取ることが、次回の練習に生かされると思いました。</li> <li>○ 記録を前回より伸ばそうと頑張っている姿が見られ感動しました。子ども達の成長を見守って行く必要があると思いました。</li> <li>○ 弁当の日は、親子共々大変とは思いますが、大切な時間だと思います。</li> </ul>
家庭、地域との連携の推進	【体験活動等を通して自然や社会から学ぶ場】《社会から学ぶ力》《自然から学ぶ力》	評価	成果・課題等	評価
	1 伝統文化の継承に真剣に取り組む、ふるさとを誇りに思ふ心をもつことができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 動きを覚えることにとどまらず、伝統的文化の概要や継承者の心情等を発達段階に応じて伝えることができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 年間6回の保存会の方によるご指導により、全校児童5人と職員が寺村剣舞踊りを覚え、合同運動会で発表することができた。(本年度は萩肥城下まつりへの参加はなかった)</li> <li>○ 寺村剣舞踊りの歴史や継承については、昨年度の指導の中で理解させており、本年度は、新しい動きの習得や全体で合わせることに時間を費やすことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 良くやっていると思います。</li> <li>○ いつも感心して見えています。</li> <li>○ 伝統を大切に守ろうと積極的に取り組む姿が見られ、子ども達の気持ちを大切にすることがあると思います。</li> </ul>
	2 夢プロジェクト等の学校外指導者を招いての授業に真剣に取り組むことができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童が多様な考え方に触れたり、自分の考え方を表現したりするための機会を意図的に設定することができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 夢プロジェクトでは「リズムダンス」に取り組み、講師や友人と意見や質疑を交わしながらダンスを創り上げ、おおくフェスタで立派に発表することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ とっても良かったです。素晴らしいです。</li> </ul>
3 教師と家庭が積極的に情報及び意見交換を行い、考えを共有することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各種通信、学校ホームページを有効に活用することができたか。</li> <li>○ 学校運営協議会、参観日、学校保健委員会の充実を図ることができたか。</li> <li>○ 日頃から良いことも心配なことも保護者・地域と情報を交換し、意思の疎通を図ることができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校や学級の様子を学校だよりや保健だよりで知らせたり、ホームページを定期的に(学校の様子)はほぼ毎日更新したりすることで、広く情報を発信することができた。</li> <li>○ 学校運営協議会やフリー参観日、学校保健委員会をほぼ計画的に実施することができ、保護者や運営協議会委員の方々と情報を交換したり、教育活動に対して理解や協力を得たりすることができた。</li> <li>○ 登下校の見守りの際に保護者と対面を話すことで、日常的に情報交換を行うことができ、相互理解と意思の疎通につながった。</li> <li>○ 学校行事等の情報を積極的にメディアに提供したことで、新聞やテレビ、ネットニュースで取り上げられることが多く、大窪小の教育活動等を発信することにつながった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 3.8</li> </ul>	